



安曇野のバイカモ

# 水草はなぜ 水中で 生きられる のか

都立動物園・水族園合同企画

身近な水辺 保全講演会

陸上生活と決別した  
植物の進化物語

東京動物園協会では、都内に生息するアカハライモリなどの身近な生き物の保全に取り組んでいます。これらの活動を紹介します。今回は水辺に「くらす」生き物について、なくてはならない水草について、その進化的な背景や現状、保全の取り組みを紹介します。

TOKYO SEA LIFE PARK

事前申込制  
参加費無料

80名  
高校生以上

葛西臨海水族園  
本館 2 階レクチャールーム

2016|01|17日  
13:00 ▶ 16:00



第1部

講演 01 | 02 動物園・水族園の取り組み

「アカハライモリを守る活動」  
/ 中沢 純一（葛西臨海水族園調査係）

「水族園の【水辺の自然】を楽しむ」  
/ 中村 浩司（葛西臨海水族園調査係）



神仙沼のウキミクリ

第2部

講演 03 「水草はなぜ水中で生きられるのか？  
——陸上生活と決別した植物の進化物語」

/ 講師：田中 法生（独立行政法人国立科学博物館植物研究部）

水草の祖先は陸上の植物です。12億年前に水中で誕生した植物は5億年前に陸上に進出し、その中から再び水中へ進出した植物が水草です。慣れ親しんだ陸上と決別し、水中へ進出した回数は実に200回以上。水草が水中で生きるために何が必要だったのか？なぜ水中で生きられるのか？水中で生活する水草ならではの生き方とその進化について、最新の研究を交えて紹介するとともに、水草の危機的状況とその保全の取り組みから、水草と水辺生態系のつながりを考えます。

【プロフィール】1970年東京都江戸川区生まれ。国立科学博物館植物研究部多様性解析・保全グループ研究主幹。筑波実験植物園研究員を兼任。博士（理学）。水草保全ネットワーク代表。専門は、水草の進化、分布拡散、遺伝的構造など。水草の保全研究にも取り組む。日本では数少ない水草研究の第一人者。著書に『異端の植物「水草」を科学する—水草はなぜ水中で生きるのか?—』（ベレ出版）、共著に『新しい植物分類学 1』（講談社）、『日本の固有植物』（東海大学出版会）、『おもしろくてためになる植物の雑学事典』（日本実業出版社）など。



田中 法生 氏



安曇野湧水群の水草

応募方法

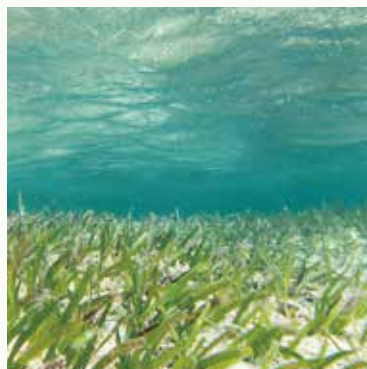
Eメールで以下のとおりお申し込みください。mizube2015@tokyo-zoo.net 宛に、件名を「水辺講演会」とし、本文に参加者全員の氏名（ふりがな）・年齢、代表者の住所・電話番号を記入してお送りください。お申し込みの際は、@tokyo-zoo.netからのEメールを受信できるよう、迷惑メールフィルターやメールソフトを設定してください。特に携帯電話からお申し込みの方はご注意ください。※応募者多数の場合は抽選をおこない、当落にかかわらずお知らせします。

▶ 締切 2016年1月8日（金）送信分まで有効

東京都葛西臨海水族園

TOKYO SEA LIFE PARK

- 開園時間：午前9時30分～午後5時（入園は4時まで）
- 休園日：毎週水曜日（祝日や都民の日に当たるときは翌日）
- 入園料：一般700円 65歳以上350円 中学生250円  
※小学生以下、都内在住・在学の中学生は無料
- お問い合わせ：東京都江戸川区臨海町6-2-3  
03-3869-5152
- H P : <http://www.tokyo-zoo.net/>
- twitter : @KasaiSuizokuen



沖縄県本部町の海草群落



クロモの花粉の飛散